

平成 28 年度の卒業式が終わりました。真新しい制服に身を包んだ凛々しい 6 年生。「旅立ちの日に」を、息を一杯に吸い込んで歌い切る 6 年生、特にテノールパートの男子の迫力・逞しさが印象的でした。「やり切る。悔いは残さない。これが私たちのいつもどおりの姿だ」という心の声が聞こえてくるかのようでした。その詳細をお伝えできないのが心残りですが、昨日の様子をお伝えして本年度最終の学校だより「途上」といたします。1 年間ありがとうございました。

## 昨日の後期終業式より

### ◆学年・学級の発表◆



2の1 「しあわせ」(詩の発表)



4の1 「ゴミプロ」の取組



6年 「6年生になるということ」

### ◆田中和幸副校長先生の講話 ～大切なことは問い続けること～ ◆

先ほどの 2 年 2 組「しあわせということ」、4 年 1 組「限りある資源ということ」、6 年生の「6 年生になること」に触れて、今日は次のような話をします。

前期始業式で始まった平成 28 年度が終わろうとしています。

今年一年間、大きなことでなくていい、何か自分の体に取り入れたもの、染み込んだものがありますか？

私は、この 4 月に附属長野小学校に来て、今、改めて思い知ったことがあります。

それは、こうして副校長講話という機会に、皆さんに話していた何回かをふりかえってのことです。

「確かに、今、私は皆さんの前に立っている。立って私が考えたことを話している。でも、それは話しているだけであって、聴いてもらえているのかは分からない。私が話すことと、聴いている皆さんが理解して動くということとは、別のことなのだ」ということです。

通学委員会の皆さんが、電車通学のあり方に問いをもち、先生たちを巻き込んで、「本当にこれでいいのか」を繰り返した。何度も振り返って課題を見つけては動いた。ただ「電車のマナーを考えて電車に乗ってください」と呼びかけただけではない。だから、心ある人が、学級が、学年が、全校のみんなが意識し始めた。

言葉は発しただけでは、伝わっていかないのだということ。

そこに必ず発した人と、その思いを受け止めてくれる人がいなければ、その言葉は風のように通り過ぎていくのだということ。

今、このことをふりかえり、反省しています。

明日、80名の卒業生がこの学校を巣立ちます。後戻りできない節をつくる日を迎えるにあたって、今日は、今一度、立ち返りたいことがあります。

昨年5月10日、この場でこんなことを話しました。

「聴いてみて、この人のおもいにたつこと、この人のおもいによりそうこと」

その時に話したことを少しなぞってみます。

お話は、16年ほど前、わたしが本校で一年生の時にヒツジを飼っていた時の出来事です。

ヒツジさんが自由に動き回れるようにと、柵を作って自由に遊びまわられるようにしました。

ところが、これくらいでいいだろうと考えてつくった柵の高さをヒツジさんが跳び越えて、隣の畑にいきなり、隣の学級で育てていたイチゴを食べてしまったのでした。

その後、柵をさらに高くしようと、ひもを使って高くしたのですが、効果はありませんでした。

案の定、イチゴを育てていた学級から、苦情が来ました。「どうにかしてください…」と。

クラスみんなで「ごめんなさい」って謝りに行きました。

そして教室に戻った子どもたち。

「もう、あやまるのはごめんだ」

「みんなで柵をもっと高くして、ヒツジさんが脱走しないようにしましょう」と決めたその時です。ひとりの女の子が立ち上がりました。その子は、

「あのね、私ね…柵は今のままでいいの ヒツジさんの好きなようにさせてあげたいの」と言います。

「そんなことしたら、また謝りにいかなくちゃいけないじゃん」とクラスの友だちの反対にあいます。

「でもね」「でもね」とその子は言い続けたのでした。

その時、どうしてそう思ったのか、聴いた場面です。こんな映像見たなあと思わせるでしょうか。

(その子が語った当時の動画が流れる)

こうして再びこの映像をふりかえった今、今のあなたなら、何を感じ、思いますか？

自分の中で、何かを考え、思い巡らしている皆さんだからこそ、平成28年度後期終業式の今、出会ってほしい人がいます。

先ほど、映像に出てきた女の子、Rさんです。お勤めが関西なのですが、今日は、この終業式のために、みなさんに会いに、はるばる5時間かけて出かけて来てくださいました。

Rさんから少しお話しをお聞きします。お願いします。



相手の声を聴くこと  
相手を受け入れること  
そして、動くこと。  
それは一体どういうことなのか

最初は羊がかわいいかわいいで 羊をペットのように飼い始めた  
でも時間が経つに連れて 自分のこどものように思い始める  
だから あのさっきのビデオのように 跳びたいなら跳べばいいと  
羊の気持ちを一番に考えたいと思うようになった  
そのためには よく観察し 見つめ 思い通りにならなくても じっと見守る必要があると  
そのとき思っていたと思う

そう思うきっかけをくれたのは お世話になった獣医さんの  
「羊のことは羊に聞きなさい」ということばだった  
物事の答えや 大切なことは 物事の中にあるということだ

ただそんな風に大事に育てていた羊をジンギスカンの牧場に返すことになる  
ジンギスカンとは羊のお肉のこと  
肉になり 誰かのお腹に入ったのか 死んでしまったのか  
私は今も知らない

結局羊はなんだったのか  
あの頃考えていことは正しかったのか  
もし家畜の役割を果たしたとしたなら どうやって生き物が食べ物に変わるのか知りたい

自分の目で見て 手で触りたいと思った



基本的には捨てられてしまう皮と骨をもらってきて 剥製の様な状態にした  
見たい 知りたいと思ったエネルギーは 結局何かにまとまることはできず  
羊はなんだったのか そして この作品をつくったことも よかったのかわからない  
考えて考えた先の答えがわからないこともあること  
胸をはれる立派な答えではないけど 「わからない」が答えになること  
自分の心の中にある大切な物は うまく見えないことがよくわかった

みなさんもこれから心でそう思うことがあると思う  
大事なことってわからないなって  
でもその時 それを答えとして認められること  
そして それで終わりじゃなくて その事についてずっと問いは持ち続けていけたらと思う  
私も一度足を踏み入れてしまった以上 伝える事や何かをつくっていくことは続けていかなければと思っている  
そういう意味では私の問いはこれからも続く

まあ でも こんなことは考えなくても 知らなくても生きていける  
ただ この学校にいる以上は こういうことを学んできただろう 学ぶことになるだろう  
そのとき どうか覚悟をもつこと  
私も 10 数年たった今でも大切な事ごとと向き合うことは まだ胸が痛い  
生半可な気持ちでは 物事の大切な物には踏み込めないから  
いつも私も自分に言い聞かせている  
みなさんも私もこれから自分の気になる事の一番大切なところに出会えるように願って…  
私からお話させて頂くことは以上です

相手の声を聴くこと 相手を受け入れること そして動くこと  
それは、問い続けること

このメッセージを平成 28 年度のまとめの今、皆さんに送るメッセージとします。終わります。